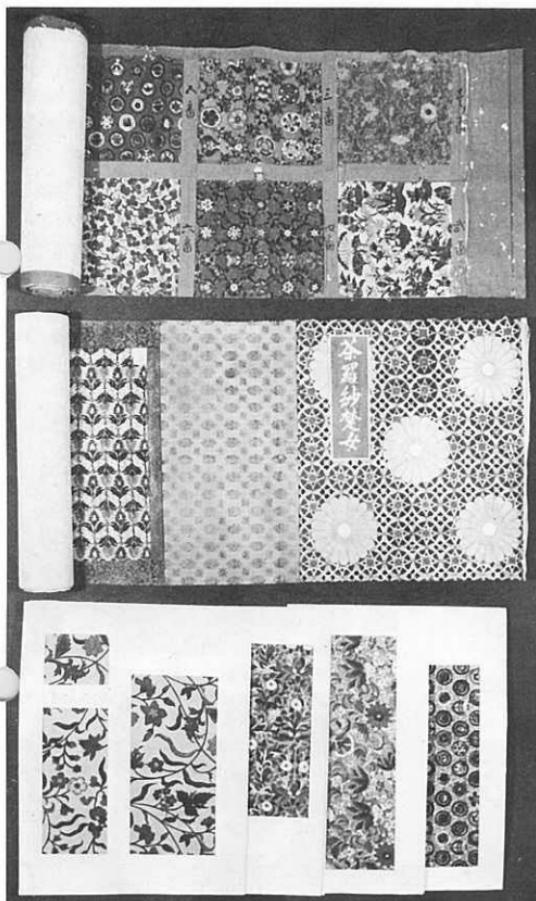


佐賀県立博物館報

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 0952(24)3947

No.46



(上段)

鍋島更紗見本帖 (佐賀県立博物館蔵)

34.0×471.0 江戸時代後期 (1800年頃)

32枚の文様裂を貼り付けた見本帖で裏に「さらさ屋兵右衛門」と墨書銘がある。文様が同じで色ちがいのものが含まれているが、19種類の文様を抽出できる。

(中段)

鍋島更紗見本帖「茶羅紗楚女」

36.0×671.5 明治時代

上段のものにみられない文様が7種類ある。

(下段)

鍋島更紗端切集

39.7×31.0 明治時代

43枚の端切を新たに同文様別に20枚の台紙に貼り付け表装したもので、上段、中段のものにみられない文様が4種類ある。

目次

● 鍋島更紗見本帖・鍋島更紗端切集.....	1
● 鍋島更紗文様・鍋島更紗文様分類一覧表.....	2
● 鍋島更紗文様写真.....	3～7
● 博物館日誌・行事のお知らせ.....	8

鍋島更紗の文様

鍋島更紗は慶長年間、鍋島直茂により招来された高麗人九山道清によってはじめられたと秘伝書にみえる。天保10年(1839)の更紗日記には鍋島更紗は參勤交代の折の藩の土産品として、九山道清末裔の江頭家・江口家に注文されていましたことがわかる。鍋島更紗の特徴は木版を用いて文様の輪郭を墨で黒くふちどり、その文様を型紙の上から刷毛で彩色した後、再び木版で赤い線を押すというように、木版を用いる点にある。

木版は現在残っていないが、現存する資料から文様を抽出すると35種に分類される。

18C頃のインド更紗や安永7年(1778)刊行「佐羅紗便覽」、安永10年(1781)刊行「増補華布便覽」天明5年(1785)刊行「更紗図譜」に紹介されている文様と類似する文様が多いことからこれらをたぐみにとりて1800年頃確立されたと思われる。文様の名称は主として「増補華布便覽」及び「更紗図譜」を参考にしたが、「○○文」としたものはそれらにみあたららないものである。

1型 紋尽手 「増補華布便覽」(安永10年、1781)に「絞出」、「更紗図譜」(天明5年、1785)に「絞ヅクシ手」と紹介されている文様と類似する。

2型 紋尽手 1型の文様をひとまわり小型化したもの。背景に唐草文様を配するものと無地のものがある。

3型 銀手 丸文の中に笠、木槌、違い丁字、巾着、宝珠^{なごし}撫子等家紋に見られる文様を配置している。

4型 銀手 「増補華布便覽」に「菱手」「更紗図譜」に「菱手」と紹介されているものと類似する。

5型 亀甲手 六角中に花菱を配する。

6型 小花つなぎ文 だ円形内に5つの粒を配し各辺に八弁の小花を配してよせあわせた文様で「小花つなぎ文」と仮称した。

7型 花尽文 15種の形の異なる小花をよせあつめた文様で花尽文と仮称した。

8型 花文 小花1種を隣合う列では、上下逆に配列する。花文と仮称した。

9.10.11.12.13.14.15型 蓼唐花 蓼唐花は別名「唐花手」ともよばれる。得体の知れぬ花を散りばめ茎を蓼のように、くねらせたもの、又、唐草のように配するものなどがある。特に13型は鍋島更紗を染めあげる過程を示す「秘伝書」に採用されている。

16型 小鳥手 「増補華布便覽」に「小鳥出トモ虫手トモ」「更紗図譜」に「小鳥手又蟲手トモ言」と紹介されている文

様に類似する。

17型 梅に鳥文 梅の垣根を背景に鳥を配するが、鳥の頭上に毛がはえているので鶯ではないようである。端切にだけみられる文様である。

18型 蝶文 蓼唐花を背景に真上からと横から見た2様態の揚羽蝶を配する。

19型 鹿手 「増補華布便覽」「更紗図譜」に「鹿手」と紹介されている文様と類似する。

20型 獅子手 名称は記載されていないが「佐羅紗便覽」に紹介されており、又、「更紗図譜」に「獅子手」と紹介されている文様と類似する。

21型 栗鼠手 「佐羅紗便覽」に紹介され、増補華布便覽には「ブドウテ」、「更紗図譜」には「栗鼠手」と紹介されている文様と類似する。

22型 凤凰手 唐花を背景に、2羽の鳳凰を配する。

23型 牡丹鳳凰手 大柄の牡丹唐草を背景に2羽の鳳凰を配するが、この2羽の鳳凰は、22型のものと似てはいるが異なる。この文様は鍋島更紗漫幕(115.0×948.0)一面にとり入れられれている。

24.25.26型 大唐花手 異国情緒豊かな不思議な花である唐花の大柄な文様である。

27型 花籠文 この図柄を用いた掛軸は、2幅ある。オランダ静物画の影響をうけた蘭画にこの種の構図が見られる。鍋島更紗に用いられる版本としては最大のものを用いた。

28型 菊に重ねる糸巻文 明治時代の製作と思われる見本帖の表装部にのみ用いられている文様で、菱形の糸巻を二つ重ね合わせている。

29型 菊文 名号入掛軸の表装部にのみ、みられる文様で28型の菊文にみられる各弁の間の線が入っていない。

30型 菊丸文 円の周辺に菊花を配する。一枚の布に熨斗文様を染め分けた敷物の中央部にのみ2点みられる。

31型 菊座文 座名号入掛軸の中央部に如来を表す白抜文字「南無不可思議光如來」「縟命尽十方無碍光如來」の下に配されている。

32型 木瓜手 見本帖の表装部にのみみられる文様で単色。「増補華布便覽」「更紗図譜」に紹介されている「ガクデ」に類似するが「更紗図譜」にもよく似ている。

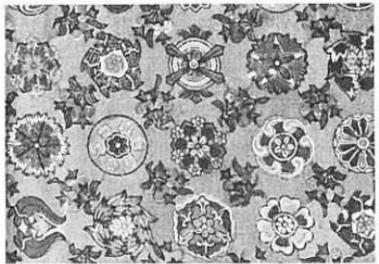
33型 花文 掛軸表装部に用いられる単色文様。

34型 蓼唐花 35型 菊唐草文 この2種は見本帖の周囲をふちどる単色文様で、35型は組合合わせて、29型の背景にも用いられている。

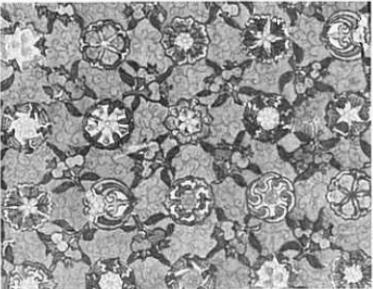
(学芸員 吉永陽三)

鍋島更紗文様分類一覧表

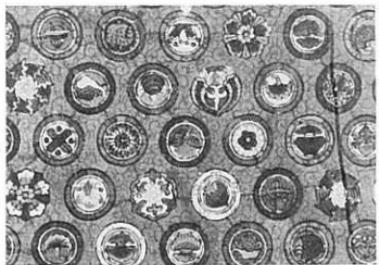
型	名	物	続	当	料	型	名	物	続	当	料
1型	紋	原手	見本帖(原標本)3番、10番、20番 模印切1番	13.5型	蓼唐花(唐花手)	日本帖(原標本)25番 模印切1番	23型	牡丹鳳凰手	見本帖(原標本)22番 模印切1番	22番	
2型	紋	な手	見本帖(原標本)4番、14番、21番 模印切1番	14.5型	蓼唐花(唐花手)	日本帖(原標本)1番 模印切1番	24型	大唐花手	見本帖(原標本)1番 模印切1番	21番	
3型	紋	手	日本帖(原標本)5番、16番 模印切1番	15型	蓼唐花(唐花手)	日本帖(原標本)4番、6番 模印切1番	25型	大唐花手	見本帖(原標本)26番、29番 模印切1番	26番	
4型	紋	菱手	日本帖(原標本)17番、24番 模印切1番	16.5型	小鳥手(手出手)	日本帖(原標本)11番、21番 模印切1番	26型	大唐花手	見本帖(原標本)21番 模印切1番	27番	
5型	角	手	日本帖(原標本)6番 模印切1番	17.5型	梅に文	日本帖(原標本)15番 模印切1番	27型	花 雄 文	見本帖(原標本)28番 模印切1番	28番	
6型	小花	つなぎ文	日本帖(原標本)10番 模印切1番	18型	蝶 文	日本帖(原標本)12番 模印切1番	28型	菊に重ねる糸巻文	見本帖(原標本)29番 模印切1番	29番	
7型	花	尽文	日本帖(原標本)12番、19番 模印切1番	19型	手	日本帖(原標本)1番 模印切1番	29型	菊 丸 文	見本帖(原標本)30番 模印切1番	30番	
8型	花	文	日本帖(原標本)20番 模印切1番	20.5型	崩 手	日本帖(原標本)2番、9番 模印切1番	31型	蓬 草 座 文	見本帖(原標本)31番 模印切1番	31番	
9型	蓼唐花	(唐花手)	日本帖(原標本)21番 模印切1番	21型	蓼手(原着手)	日本帖(原標本)3番、12番 模印切1番	32型	木 瓜 手	見本帖(原標本)32番 模印切1番	32番	
10型	蓼唐花	(唐花手)	日本帖(原標本)3番、18番 模印切1番	22.5型	風 手	日本帖(原標本)14番 模印切1番	33型	花 文	見本帖(原標本)33番 模印切1番	33番	
11型	蓼唐花	(唐花手)	日本帖(原標本)14番 模印切1番				34型	蓼唐花(唐花手)	見本帖(原標本)34番 模印切1番	34番	
12型	蓼唐花	(唐花手)	日本帖(原標本)19番 模印切1番				35型	菊 丸 文	見本帖(原標本)35番 模印切1番	35番	



1型「紋尽手」



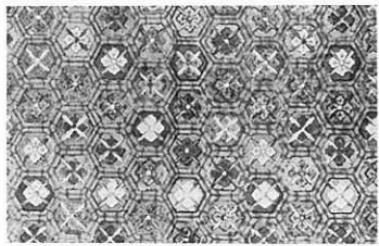
2型「紋尽手」



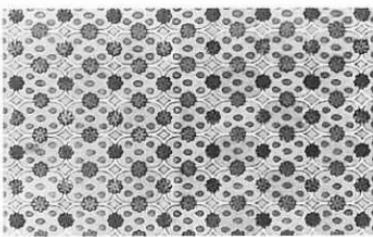
3型「錢手」



4型「錢菱手」



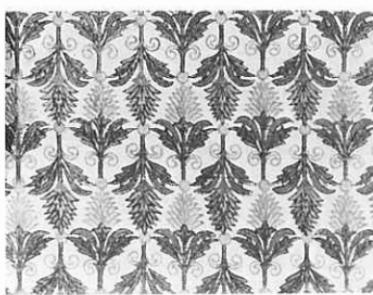
5型「龟甲手」



6型「小花つなぎ文」



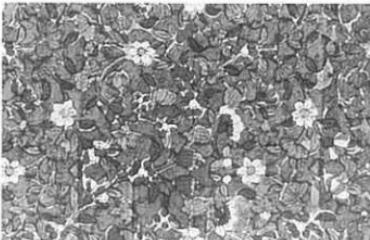
7型「花尽文」



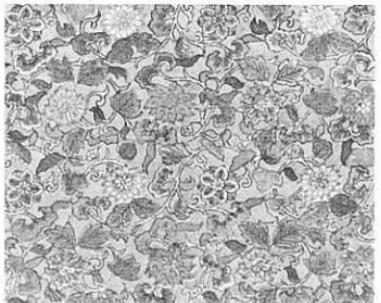
8型「花文」



9型「蔓 唐 花」



10型「蔓 唐 花」



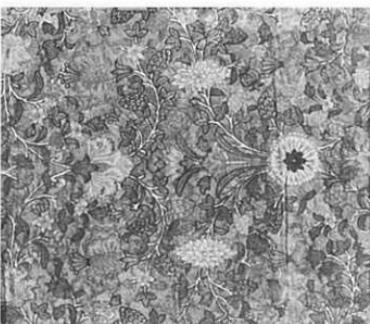
11型「蔓 唐 花」



12型「蔓 唐 花」



13型「蔓 唐 花」



14型「蔓 唐 花」



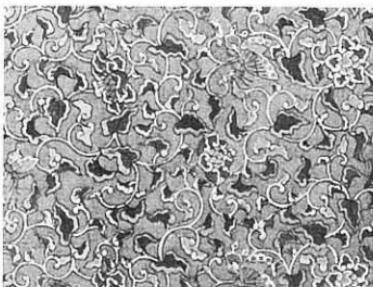
15型「蔓 唐 花」



16型「小 鳥 手」



17型「梅に鳥文」



18型「蝶文」



19型「鹿手」



20型「獅子手」



21型「栗鼠手」



22型「鳳凰手」



23型「牡丹鳳凰手」



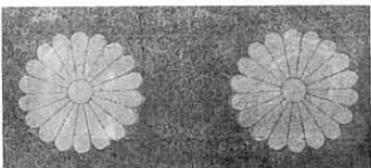
24型「大唐花手」



25型「大唐花手」



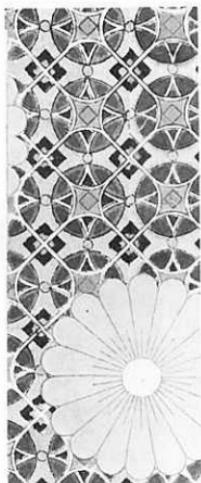
26型「大唐花手」



29型「菊文」



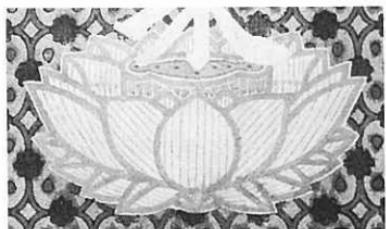
27型「花籠文」



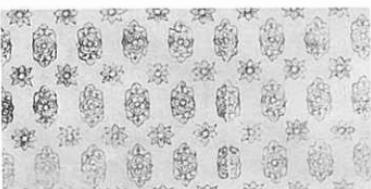
28型「菊に重ね糸巻文」



30型「菊丸文」



31型「蓮華座文」



32型「木瓜手」



33型「花文」

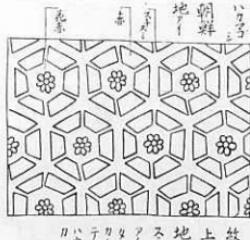


34型「蔓唐花」



35型「菊唐草文」

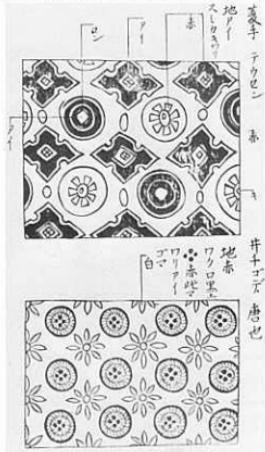
参考品 鍋島更紗と類似する文様佐羅紗便覽(20, 21型)増補華布便覽(1, 4, 16, 19型)



1型「紋尽手」



19型「鹿手」



4型「錢蔓手」



16型「小鳥手」



20型「獅子手」



21型「栗鼠手」

博物館日誌 (54.8.1~10.31)

8月4日	「七夕書道展」開場	9月20日	「理科作品展 佐賀県展」開場
8月5日	常設展「佐賀県の歴史と文化展」開場	9月26日	「理科作品展 佐賀県展」終了 (総観覧者数3,192名)
8月8日	「七夕書道展」終了 (総観覧者数 1,677名)	9月30日	常設展「佐賀県の歴史と文化展」終了 (総観覧者数3,091名)
8月10日	「佐賀県書作家協会展」開場	10月6日	「古代九州の遺宝展－鏡・玉・剣」開場 「古代九州の遺宝展－鏡・玉・剣」記念講演会 「古代九州と中国」 講師九州大学教授岡崎敬氏
8月14日	「佐賀県書作家協会展」終了 (総観覧者数 646名)	10月12日	移動博物館を唐津市にて開催 (14日まで総観覧者数1,365名)
8月21日	「文化庁移動美術展」開場		
9月9日	「文化庁移動美術展」終了 (総観覧者数 3,191名)		
9月14日	「理科作品展 佐賀市支部展」開場		
9月18日	「理科作品展 佐賀市支部展」終了 (総観覧者数1,608名)		

行事のお知らせ

昭和54年度

常 設 展 (原則として月曜及び祝日の翌日休館)			
佐賀県の歴史と文化展	12月11日 ～55年 3月31日	大人 50 (30) 大・高生 30 (20) 中・小生 20 (10)	佐賀県の地質や自然および先史時代から現代にいたる歴史と文化についての理解を深めるために自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の各部門について、系統的に資料を展観する。

団体は20名以上、()内は団体料金

企 画 展 (月曜休館、月曜祝日の場合は火曜休館)					
展覧会名	会期	観覧料 ()内は団体料金	展覧会名	会期	観覧料 ()内は団体料金
佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道部門展	11月28日 ～12月4日	無 料	佐賀県勤労者美術展	1月27日 ～2月1日	無 料
佐賀県学童美術展	12月8日 ～12月12日	無 料	佐賀大学卒業制作展	2月21日 ～2月24日	無 料
九州 グラフィック・デザイン展	55年 1月10日 ～1月16日	無 料	玄界のくじら捕り －西海捕鯨の歴史と民俗－	3月1日 ～3月23日	大人 200(150) 大・高生 100(50) 中・小生 50(30)
書初展	1月19日 ～1月23日	無 料			

会期は都合により変更されることがあります。修学旅行等の計画に博物館の見学を折り込んで下さい。

博物館報	第46号
発行年月日	昭和54年12月1日
編集発行	大塚正道
	佐賀市城内1丁目15～23
印 刷	佐賀県立博物館
	佐賀印刷社